

国語 第2学年 ていねいに かんさつして、きろくしよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書の令和6年度版年間指導計画に基づく1学期の授業案。教材本文・台詞・挿絵・問題文は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする。学習の記録は、観察の事実と感想を分けた記録文である。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕 B 書くこと(1)ア	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕 (1)オ	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。

単元の目標

身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにすることができる。（〔知識及び技能〕 (1)オ）

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことで、語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕 (1)オ）	①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

単元の流れ

光村図書の年間指導計画による全10時間（書10）。総時数は公式資料に従う。各時の配分と本時の選定は、本案による授業配当の提案である。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 単元の終わりに残す記録を確認め、学習の見通しをもつ。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～5	○学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。必要な語や材料を集め、関係を整理する。	知①（言葉・文字・資料の扱いを確認める活動）
第3次	6～9 （本時）	○学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。観察した事実と感じたことを区別して記録し、伝えたい特徴に必要な材料を選んで書く。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第4次	10	○読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習で確かめたことを別の文章や場面でどう使うかを話す。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



本時の案

本時の目標：経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」 【めあて】観察の観点を決め、実際に確かめたことを文章の材料にする。 〈予想される児童の反応〉 ・大きいだけではどれくらいか伝わりにくい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」 学校で観察できる物を選び、形・色・大きさ・動きなどを見る。観察した事実と感じたことを区別して記録し、伝えたい特徴に必要な材料を選んで書く。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・大きいだけではどれくらいか伝わりにくい。 ・前に見た時と変わった場所がある。	実物をもう一度見られる時間を設ける。 比べる基準は実物で確かめ、測定していない数値を補わない。 想定する難しさ：感想だけを書く、見ていない特徴を図鑑から写して観察結果とする。 評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、観察の事実と感想を分けた記録文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 観察の事実と感想を分けた記録文を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・前に見た時と変わった場所がある。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「その様子を見ていない人に伝えるには、何を詳しく確かめますか」。中央は、観察の事実と感想を分けた記録文に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

つまずきやすい所と手当て

感想だけを書く、見ていない特徴を図鑑から写して観察結果とする。この難しさには、実物をもう一度見られる時間を設ける。比べる基準は実物で確かめ、測定していない数値を補わない。評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、観察の事実と感想を分けた記録文と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

プリントの案

本時の記録

観察の事実と感想を分けた記録文を残す欄を用意する。教材本文や図を複製せず、自分の言葉や印で記録する。

比べて確かめたこと

最初の考えや表現、友達からの反応、確かめた言葉、最後に選んだ考えや表現を対応させる。書く負担が大きい場合は口述や指差しも教師が記録する。

出典：光村図書 令和6年度版 年間指導計画。教材名・時期・総時数・目標の出典。年間指導計画例 Excel（2年）「2年上巻」51行目（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/1916261d-d388-44ac-af42-3aa7e13b6b11/368）／文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）。保存した公式原文と学年段階・項目を照合。
（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語。評価の観点と記録の考え方。
（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

